OD-FIVE 2 Xtreme　取扱説明

この度は Ovaltone の製品をお買い上げ頂き、ありがとございます。
製品を快適にお使い頂く為に、この取扱説明書を良くお読み下さい。

使用上の注意点(重要!)

※本機は必ず指定の規格の電源を使用して下さい。ノイズや動作不良の原因になります。
＞＞安定化済み AC アダプタ(DC9V、センターマイナス) あるいは 9V アルカリ乾電池

※内部にて昇圧しておりますので、DC9V 以上の昇圧した電源を接続すると故障する可能性があります。9V にてお使い下さい。

※使用、保存される場所は高温、多湿、ほこり、水を避けて下さい。故障、火災、感電の原因になる場合があります。

※製品を分解、改造しないで下さい。火災、感電の原因になる場合があります。また、音質や音色が損なわれる可能性があります。

※AC アダプターを使用される際は、次の事柄に注意してください。火災、感電の原因になる場合があります。

・指定の規格(入力:AC100V 50/60Hz、出力:DC9V、センターマイナス、2.1mm)に合ったものをご使用下さい。
・AC アダプタの放熱に十分注意して下さい。
・濡れた手で抜き差ししないで下さい。
・コンセントから抜くときはコード部を引っ張らず、本体を持って抜いて下さい。
・長期間使用しないときは AC アダプターを抜いて置いて下さい。
・コンセントの指し口に、ほこりを溜めないで下さい。

※分岐式の電源供給器(パワーサプライ)を使用される際は、次の事柄に注意してください。故障の原因になる場合があります

・使用するエフェクターの消費電流の合計が、電源供給器(パワーサプライ)の供給可能な消費電流量を上回らないようにして下さい。消費電流に余裕のあるものをお使い下さい。
・センターマイナスのものをお使い下さい。
・電源供給器(パワーサプライ)がオンの状態で、既に 1 つ以上のエフェクターに接続されている場合、パワーサプライケーブルのプラグの外側の金属部分をエフェクターの金属ケース(外装)に接触させないで下さい。一度電源供給器(パワーサプライ)をオフにしてから接続して下さい。

※使用しない時は INPUT ジャックからプラグを抜いて下さい。電池の消耗を抑える事が出来ます。また、長期間使用しない場合は液漏れを防ぐ為、電池を抜いて下さい。

※電池のプラスとマイナスを間違えないで下さい。故障、駅漏れの原因になる場合があります。

※製品を落としたり、無理な力を加えないで下さい。故障の原因になる場合があります。

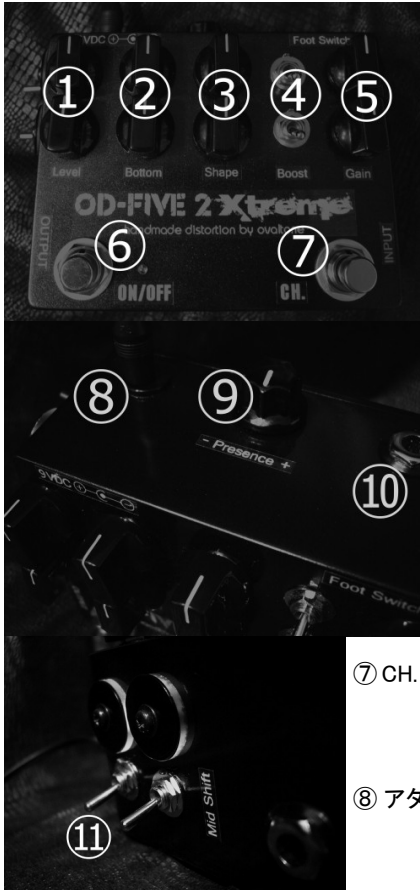
※トゥルーバイパスの為、INPUT と OUTPUT を逆に接続しても OFF 時には音が出ます。お間違えのない様、お気を付け下さい。

※オペアンプは故障時のメンテナンスの為、ソケットを使用しています。ご自身での交換はお控え下さい。

※本体にケーブル表面などゴム状のものを長時間接触させておくと、塗装が溶ける事がありますので、お気をつけ下さい。

■特徴■
ハイエンドアンプヘッドのフィーリングを再現したディストーションです。
音色だけではなく、ギター側のボリュームやピッキングへの反応も優れています。
それぞれ独立して設定できる 2 チャンネル仕様で、外部フットスイッチ端子つきです。

■電源■
安定化済みの AC アダプタまたはパワーサプライ(DC9V、センターマイナス、2.1mm)
あるいはアルカリ乾電池が使用可能です。
消費電流が多めなので、アダプタかパワーサプライを推奨します。
※安定化済みではないアダプタではノイズ.が乗ります。ご注意下さい。

■コントロール■

① Level・・・・・・各チャンネルの出力音量を調節します。

② Bottom・・・・各チャンネルの音の低域、厚みを調節します。
不要な低域をカットしたり、逆に迫力春増す用途で使えます。中央がフラットで、右がブースト、左がカットです。

③ Shape・・・・・各チャンネルの音色を調節します。
中央がフラットで、右へ回すと高域寄りの音、
左へ回すと低域寄りの音になります。

④ Boost・・・・・各チャンネルのブーストモード ON/OFF を切り替えます。
ブーストモードではより深い歪みが得られます。
上に倒すと ON、下に倒すと OFF になります。

⑤ Gain・・・・・・各チャンネルの歪み量を調節します。
右へ回すほどゲインが上がります。

⑥ ON/OFF・・オン、オフのフットスイッチです。
オンの時、左側のインジケーターと、赤色の LED
が点灯します。

⑦ CH.・・・・・・・チャンネル切り替えのフットスイッチです。
押すごとに上側の BLUE チャンネルと下側の GREEN チャンネルを切り替えます。オフ時も右側のインジケーターは点灯し続けるので、状態確認が可能です。

⑧ アダブタジャック・・・・アダプタのプラグを差し込みます。

⑨ Presence・・・・・・・・全体の超高域を調節します。(両チャンネル共通)
超高域はアンプによって出方が様々です。歪ませてみて耳が痛い場合は左(時計回り)へ回し、こもってしまう場合には右(反時計回り)に回します。また、例えば Shape を下げて温かい音色を作り、その後失われた分の超高域を足して、温かく抜けの良い音色を作るというような積極的な使い方も可能です。

⑩ Foot Switch・・・・・ラッチタイプ(1 回踏むごとにオンとオフが切り替わるタイプ) のフットスイッチを接続すると、そのスイッチでチャンネルを切り替える事が出来ます。
フットスイッチ接続中は本体のチャンネル切り替えスイッチは無効となります。ルーパー等でアンプのチャンネル切り替えが出来るタイプのものであれば、パッチごとにチャンネルを設定して使うことも出来ます。

⑪ Mid Shift・・・・・・・・各チャンネルの中音域の出方を選択します。
上に倒すと中音域が盛り上がります。
下に倒すと中音域がフラットになります。
クリーントーンの中域を削っている場合や、スタックタイプのアンプのクリーンチャンネルを使用する場合は上に倒すと格段に音作りがしやすくなります。また、例えばバッキングと同じ位の歪み量で、ソロを前に出したい時、片方を Mid Shift する事で音色のみソロでブースターをオンにした様な効果を得る、というような使い方も可能です。